

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和二年五月一日発行 第七十四号

檀信徒の皆さまこんにちは。五月と六月の講習会はお休みにさせて頂きます。

四月のお便りでは生老病死の悩みから抜け出すために出家をしたお釈迦様がたどり着いた悟りの状態が中道であると書きました。そして中道とは二極の真ん中ではなく「両極端なものを見方を離れたバランスの取れた姿」であると説明しました。

緊急事態宣言が発令され、感染者が急増している現状をどの様に考え受け取り行動すべきかを先月に引き続き書いてみます。

未だに打開策が見いだせない中で多くの人たちが閉塞感を感じていると思います。悩みとは心につきまといて心を汚すもの。正しい判断が出来ず、心身が悩んでいる状態で、仏教ではそれを煩惱と言います。その煩惱を分解すると「貪・瞋・癡」（とん・じん・ち）の三毒に分けられます。何よりも大切な自分の命に執着（貪り）がおこることは否定できませんが、大切な命を脅かすモノ、コトに対して知らぬ間に怒りや陰悪、憎悪の感情が芽生えてきます。これが瞋（じん）です。この貪りや瞋りの原因は癡（ち）とは真実に暗いこと、無知で有ることです。

私は毎年多くのお葬式をさせて頂き肺炎の怖さを知っているつもりです。高齢者や持病

のある方は最終的に肺炎で亡くなるケースが多いこと、予防接種やタミフル、リレンザなどの特効薬が有りながらもインフルエンザで年間千人以上の死者が出ている事を踏まえ、新型コロナウイルスを侮るのではなく、何よりも大切な命と心に焦点を当てて現状を考え

てみます。さて、四月のお便りでは人や物のグローバル化が新型コロナウイルスの感染を広げた事を書きました。今月は先ず情報について考えてみたいと思います。ひと昔前までは情報は一部の限られた専門家しか知りうる事が出来ませんでした。しかし今ではインターネットの普及により多くの人々が同時に等しく情報を得やすい環境になりました。人やモノ以上に情報のグローバル化が進んでいます。更にはスマートフォンなどが普及した結果、常に情報をチェックしてしまう情報難民（インターネット上の情報を無批判に受け入れてしまう）になってしまっている事も否定は出来ない部分があります。常に最新の情報を仕入れたくなるのは人間の持つ本能（知的好奇心）なのではないかと思うほどです。少し前、知らぬ間に潜在意識へ刺激を与えるサブリミナル効果が問題となりましたが、今ほどのチャンネルをつけてもインターネットに接続しても新型コロナウイルスを目にしない事が不可能というほどに浸食をしています。自分で気をつけなければ少しずつ塩分の多い食事になってしまいう様に、知的好奇心に

飢えている現代人は刺激の強い情報に目がいきやすくなり、テレビ番組なども視聴率を取るために、それらを提供します。その結果、情報はあふれているけれど取捨選択が出来ずに無知となっている気がするのです。

ご存知のように、四月三十日現在の新型コロナウイルスの感染者は約一万四千五百人。死者は四五五人です。参考までに昨年の新型コロナウイルスの推計受診者数は七二八万五千、入院患者数は約一万三千人。死亡者数は三千人以上、また肺炎で亡くなっている人は約九万六千人です。因みに減少傾向にあるものの昨年の自殺者数は二万人以上です。（発件数等は全て厚生労働省のホームページを参照）数字の評価は皆さんにお任せをしますが、不安とは漠然としたこと、現実ではなく不確定な将来への怖れであることが多いことも知って下さい。私が今この様な事を書く不快に思う方もいるかもしれませんが、これから先、さらに感染者が増え軽症の方が帰って来た時、収束から復興へと向かっていく時に過剰な恐怖と漠然とした不安が足かせになってはいけないと思うのです。

私の見解が必ずしも正解であるとは限りませんが、他の意見を主張する方々を否定するものでもありません。二極を離れた中道を歩むためにも私見を書かせて頂きました。

一人でも多くの方のご無事と心の平安。そして一日でも早い収束をお祈りいたします。